

訪問介護の現場を変える!

最新IT技術を体感してみませんか?

管理者向け!

2019. 9/13(金) 10:30~17:00
会場 TKP名古屋駅前カンファレンスセンター5階ホール5A

ロボット
体験あり!



1部 生活機能向上連携加算の 取り組み方

講師紹介

医療法人和光会 寺田ガーデン
理学療法士
今井 優利 氏



【プロフィール】

平成18年より理学療法士資格取得し岐阜市にある医療法人和光会山田病院にて勤務となる。病院での勤務を経てクリニックからの訪問リハビリ、運動特化短時間サービス開設に関わり、介護老人保健施設寺田ガーデンでの勤務となり、在宅でのさまざまなリハビリサービスを経験し現在に至る。

平成30年の介護報酬改定では、デイケア、訪問リハビリテーションのセラピストと訪問介護との連携に伴う【生活機能向上連携加算】の対象事業所が大きく広がり、さまざまな事業所で算定ができるようになった。リハビリテーションマネジメントの視点も求められ、自立支援・重度化防止に向けた科学的介護を実現するために、セラピストとの連携は重要となる。全国的にまだ算定件数も少なく連携も試行錯誤している事業所も多い。当施設における訪問介護との連携強化に向けた取り組みを事例も含めて紹介する。

2部 実地指導新運用指針の 内容と対応策

講師紹介

株式会社ねこの手
代表取締役
伊藤 亜記 氏



【プロフィール】

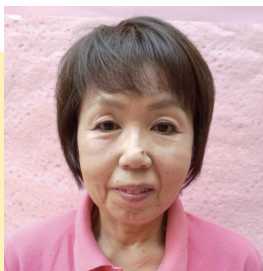
短大卒業後、出版社へ入社。祖父母の介護と看取りの経験を機に、社会人入学にて福祉の勉強を始める。98年、介護福祉士を取得し、老人保険施設で介護職を経験し、ケアハウスで介護相談員兼施設長代行を務める。その後、大手介護関連会社の支店長を経て、「ねこの手」を設立。現在、旅行介助サービスや国内外の介護施設見学ツアーの企画、介護相談、介護冊子制作、介護雑誌の監修や本の執筆、セミナー講師、TVコメンテーター、介護事業所の運営・営業サポートなど、精力的に活躍中。

厚生労働省が介護保険のサービスを提供する事業所に対する実地指導の運用指針を新たに策定しました。従来より数を減らした「標準確認項目」と、それを確かめるための「標準確認文書」を規定し、特別な事情がある場合を除き、これら以外のチェックは原則として行わない方針としました。サービスの質の担保や利用者の保護といった観点からとりわけ重要なものだけに限定した内容ですが、今後はより多くの事業所に実地指導は入りますので、適切に内容を理解し、対応が求められます。セミナーでは、立会い経験も踏まえての対応策についてお話致します。

3部 「老計第10号」を理解しよう! 自立支援と重度化防止の視点

講師紹介

全国社会福祉協議会
全国ホームヘルパー協議会 会長
神谷 洋美 氏



【プロフィール】

安城学園女子短期大学卒業。平成11年社会福祉法人 旭町社会福祉協議会入社し、平成17年豊田市社会福祉協議会となる。現在は社会福祉法人 豊田市社会福祉協議会 旭支所支所長、平成20年愛知県ホームヘルパー連絡協議会会長、平成27年~全国ホームヘルパー協議会会長。

「老計第10号」が平成30年に見直され見守りの援助の内容が明確化されました。今後、訪問介護サービスの指針ともいえる「見守りの援助」にいかに関わり、これまで以上に大切になります。

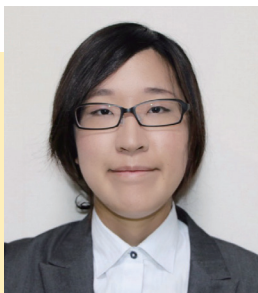
「老計第10号」がどんな内容か?なぜ改正したのか?

- ・自立支援と重度化防止の視点
 - ・共に行う専門職としての介護
- についてのポイントを講義します。

4部 ロボット・AI 技術を 活用した自立支援

講師紹介

パナソニック株式会社
AIソリューションセンター
横矢 真悠 氏



【プロフィール】

千葉大学融合科学研究科修了。2013年より現職のパナソニック株式会社に入社。同社技術職として高齢者の健康寿命を延伸するAI・ロボティクス技術の研究開発に取り組む。2019年より名古屋大学特任講師。

超高齢化社会を迎え、介護現場の支援を目的としたロボットやAIによる技術開発が進んでいます。ここでは、これらの技術開発について機能や用途の観点から分類し、それぞれの近況をご紹介します。

また、近年重視されつつある「介護予防」「自立支援」の観点から、どのような支援技術が検討されているかを紹介し、一つの事例として、現在我々が開発を進めている、歩行トレーニングロボットについて紹介します。本ロボットは、ADLの基本となる歩く力の維持・向上を目的として、AIによる歩行分析で一人ひとりに最適な運動負荷を提供するとともに、歩行状態の見え方によるモチベーションUPに繋げ、継続的に取り組めるよう支援します。

スケジュール

10:00～	研修会 受付
10:30～	全国社会福祉協議会 全国ホームヘルパー協議会 会長 神谷 洋美 氏 挨拶
11:00～12:00	【1部】生活機能向上連携加算の取り組み方(質疑応答含む)
12:00～13:00	昼休憩 お昼は各自ご持参ください。
13:00～14:30	【2部】実地指導新運用指針の内容と対応策
14:30～15:30	【3部】「老計第10号」を理解しよう!自立支援と重度化防止の視点
15:30～16:30	【4部】ロボット・AI 技術を活用した自立支援
16:30～	質疑応答 閉会の挨拶

受講証明書

「研修タイム」研修を受講したことを証する。
講師：講師氏名
受講者氏名：○○
研修時間：○○
2019年○月○日
一般社団法人S-QUE研究会

当日
受講
証明書
発行します!

受講料

一般: **2,000円**

契約施設: **無 料**

※S-QUE Eラーニングサービスご契約施設
院内研修1000または訪問看護・介護ケア講座

申込方法

下記メールアドレスに必要事項を記載して送ってください。
〔施設名・名前・住所・TEL・FAX・一般か契約施設〕

Mail

s-que@ekaigo.net

参加の可否はメールにてご返信いたします。
※返信メールが届かない方は
TEL0120-128-774までご連絡ください。

定員

100名

(定員になり次第終了)

会場

**TKP名古屋駅前
カンファレンスセンター
5階 ホール5A**

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区
名駅2-41-5 CK20名駅前ビル 5階

交通アクセス

名古屋市営桜通線 名古屋駅 1出口 徒歩3分
名古屋市営東山線 名古屋駅 1出口 徒歩3分
JR東海道本線 名古屋駅 桜通口 徒歩7分
名鉄名古屋本線 名鉄名古屋駅 徒歩8分
J R 関西線 名古屋駅 桜通口 徒歩7分
J R 東海 中央線 名古屋駅 桜通口 徒歩7分



参加申込書

参加を希望される方は
メールかFAXにてお申し込み下さい。

FAX:042-444-7741

氏名			
施設名	一般	・	契約施設
住所	〒		
TEL		FAX	
メールアドレス			

主催/お問い合わせ

一般社団法人 S-QUE研究会 ヴェクソンインターナショナル株式会社 〒182-0006 東京都調布市西つつじヶ丘3-37-2-9F
フリーダイヤル:0120-128-774 E-mail:s-que@ekaigo.net URL:http://s-que.net